

第2回横浜サイン賞の受賞作品について

総評（横浜市屋外広告物審議会）

今回第2回となる「横浜サイン賞」には148作品という多くの応募がありました。応募作品を通じて、個性豊かなサインのある施設や街の魅力に改めて気付かされる審査となりました。

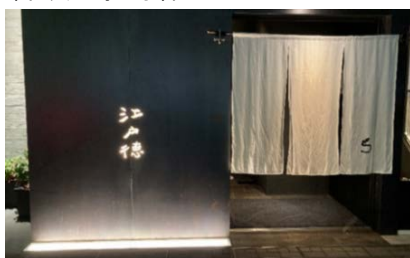
作品審査は①関係法令への適合 ②機能性、デザイン性 ③横浜の魅力ある景観形成を基準に行いました。一次審査で25作品を選出し、「横浜サイン展2021」でのパネル展示と来場者投票を経て、二次審査で12点の受賞作品が選ばれました。

受賞作品は、個性や歴史を伝える看板、現代的な表情や技術をもつサイン、街づくり、遊具等、大変多彩な「横浜サイン」となりました。今後も本賞を通じてサインへの関心が深まり、横浜の景観形成に寄与するものとなることを願っています。

表彰作品・評価コメント

江戸徳

中区太田町五丁目 63



和風のサインには一般的に伝統的な深みがありますが、店舗の営業時間帯やサービスのグレードによって、周辺も含めた魅力的な環境デザインとしてのサインとなります。本事例はその手法を駆使した代表例であり、夜間照明と合わせて構成された、優れた「横浜サイン」の一つと言えます。

おもや甘納豆店

南区吉野町三丁目 7



車、人ともに往来の激しい国道16号線沿い。ビルの谷間にあり、そこだけタイムスリップしたかのような店の佇まい。量り売りの甘納豆屋です。一階の屋根にどっしりと鎮座した看板、そこに刻まれた「おもや」という店名は右から左へ読みます。大正12年創業という誇りに加え、手作り、手売りの温かさが漂っています。

キタムラ K2 元町本店

中区元町二丁目 95



元町通りは「元町通り街づくり協定」を策定運用して街並み形成に取り組んでいます。キタムラ K2 元町本店の軒下看板は、バッグを彷彿させる濃紺の本体、木の葉など具象的なモチーフと明瞭なロゴで構成されています。小さな造形サインですがその記憶に残るデザインは、魅力的な街の景観形成に大きく寄与しています。

麒麟ビール横浜工場

鶴見区生麦一丁目 17-1



歴史的に多くのユーザーが見慣れてきた麒麟のコーポレート・アイデンティティは、時空を超えたサインの好例です。さらに横浜工場には新設された三層ガラスに装飾施工が加わり、夜間のライトアップによって極めて印象的な姿を見せています。

京急ミュージアム

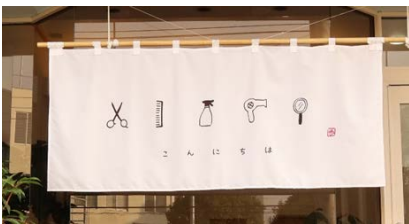
西区高島一丁目 2-8



横浜を通る代表的な私鉄のミュージアムが、沿線開発の拠点として「みなとみらい 21」に新設されました。その前の広場に置かれた、コンパクトでインパクトのある遊具として遊べる、サイコロのような楽しいベンチ型サインです。

こんにちは

栄区公田町 514



ヒノキの香り溢れる内装等によって新設された美容室が、店主によって作り上げられました。ピクトグラムによるサインを含めた店の佇まいが、白を背景としたモノクロの粋な暖簾のデザインによって控えめに表現されています。

中山精肉店

緑区長津田五丁目 5-6



かつては宿場町だった長津田に生まれた精肉店です。その黒を背景としたモノクロ看板のサインは、「精肉の仕事道具」と「宝物としての最高の肉のありか」をモチーフとしており、抽象的ながら印象的なロゴによる発想を特徴としています。

ハードロックカフェ横浜

西区みなとみらい二丁目 3-1 クイーンズタワーA1階



巨大なエレキギターサインは多くの来街者の足を止めます。横浜ランドマークタワーをはじめ、みなとみらい 21 地区のスケールの大きな施設に隣接しながらも、誘目性が高く、夜にはネオンで鮮やかにギターが浮かびあがります。世界中のハードロックカフェが掲げるギターのサインが、横浜みなとみらいならではの景観に寄与しています。

協同組合 元町エスエス会

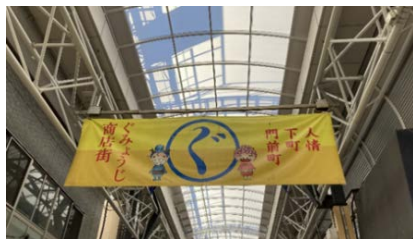
中区元町一丁目 14 番地



フェニックス（不死鳥）ほど横浜中心地にふさわしいものはありません。このあたりは関東大震災、横浜大空襲と相次ぐ厄災で焦土と化しました。それでも見事に甦ったのです。開港期から横浜を象徴する商店街である元町。フェニックスのアーチはその歴史をさりげなく伝えているようで胸が熱くなります。

横浜弘明寺商店街協同組合

南区弘明寺町 134



弘明寺商店街の周りには観音様があります。京急本線と市営地下鉄ブルーラインの駅もあります。しかしあえて「ぐ」で勝負しました。「なんだろう？」と思わせ、まずは商店街の名前を覚えてもらう。良いアイキャッチになり、優れたアピールとなっています。

横浜ハンマーヘッド

中区新港二丁目 14-1



「ハンマーヘッド」。素敵なネーミングです。力強いし、あの巨大なクレーンを知らない人は、「どういう意味？」と首をかしげるかもしれません。その名前を大きく打ちだした看板は、迫力だけではなく、興味を引くという点でも成功しています。

理容室ミズノ

戸塚区戸塚町 3981-12 M フラット



ヨーロッパの伝統看板のような吊り下げ型のはさみの造形サインは、旧店舗から現在の店舗に移設したもので、戸塚の老舗理容室のシンボルとして長年役割を果たしてきました。緑青に赤錆びが加わったサインや共に時を刻んできたサインポール等の趣は、現代的な建物とのコントラストと調和を生み、理容室の歴史を伝えています。